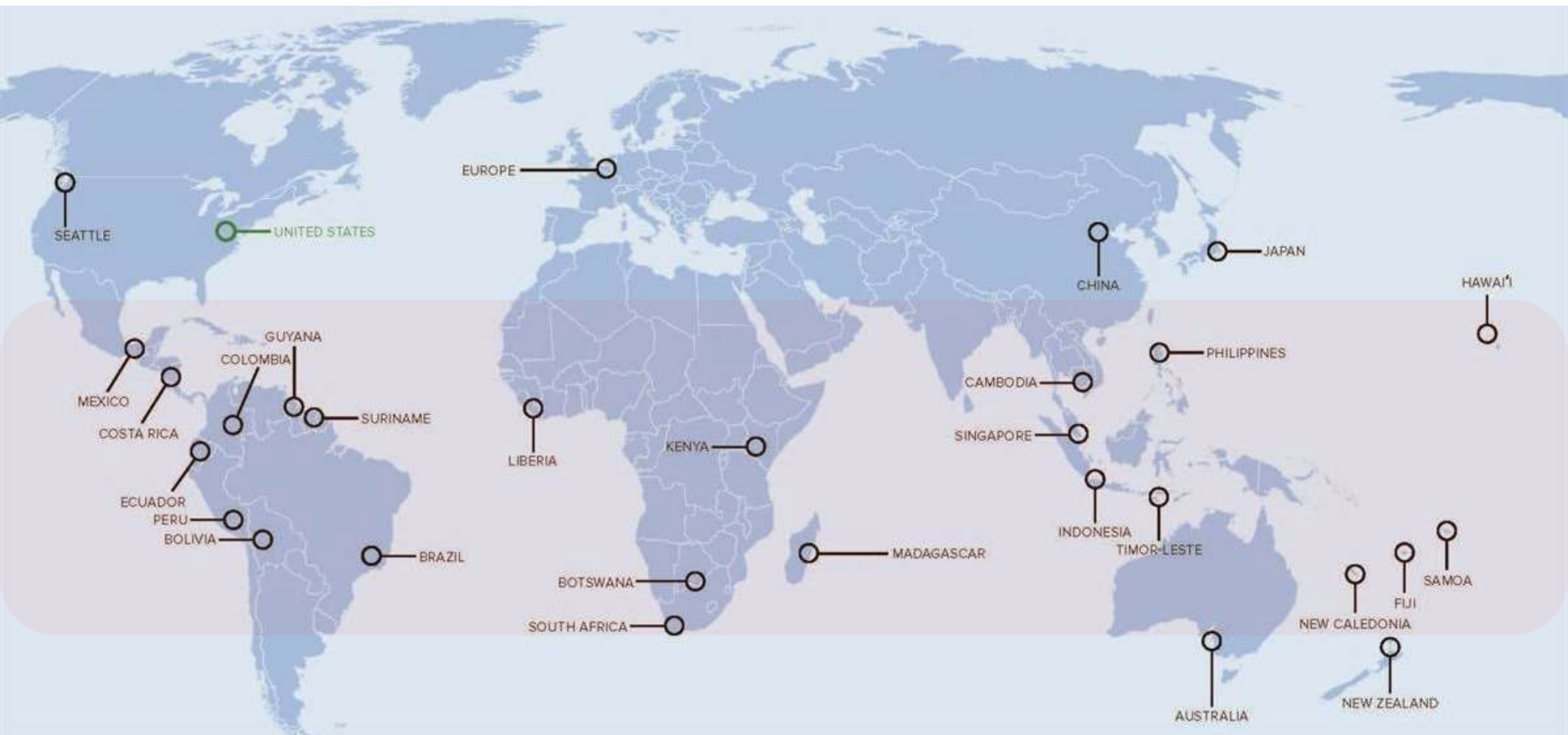


コンサベーション・インターナショナル(CI)

自然を守ることは、人間を守ること



- 設立：1987年
- 本部：米国ワシントンD.C.
- 拠点数：世界31カ国

- グローバル職員数：約1000名
- 活動国・地域数：世界70カ所以上
- 生物多様性ホットスポット

Human Well-being*



*Human Well-being = 衣食住が足りて、健やかで、選択の自由があり、社会とのつながりの中で、平和に暮らせること

パートナーシップを通じて実現



CIとREDD+

- 保全を実施するための持続可能な資金源として、長年REDD+を活用
- 現在も、様々なステージにあるNatural Climate Solutions (NCS) 案件に多数取り組む
- 関わり方: 現地での実施、クレジット創出、マーケティング、ファンド形成



REDD+

- 様々な関係者の関心が重なる
 - 規制(パリ協定、各国政策・炭素税等)
 - 企業の社会責任とオフセット
 - 気候変動の明確さ
- 課題はあるが、解決しながら前進
 - 質の高いクレジット
 - 制度面の改善(国レベルへのネスティング等)
 - 急激な需要増加に供給が追いついていない状況。人材育成と適切な連携。
 - 活動の可能性を広げるクレジット価格(例:シンガポールの炭素税:2024に\$25/tCO₂, 2026に\$45/tCO₂, 2030までに\$50-80/tCO₂)



森林保全／REDD+を実施する場合の一般的な役割・体制(資金以外)

森林減少を抑制する取組み

クレジット創出の為の取組み

国際

国際動向(パリ協定、関連基準・議論等)

中央政府

保護区管理計画策定・実施

排出権取引に関する政策

REDD関連政策・動向(国レベルとの連結等)

地方政府

炭素定量化

コミュニティ

住民参加型
森林管理

農業支援

その他の代替
生計手段開発

苦情処理
メカニズム

関係者間の連携体制構築

ベネフィット・シェアリング

住民エンゲージメント
(各種コンサルテーション、意見汲み取り等)

森林保全／REDD+を実施する場合の一般的な役割・体制 (資金以外)

CIが実施する案件の例

森林減少を抑制する取り組み

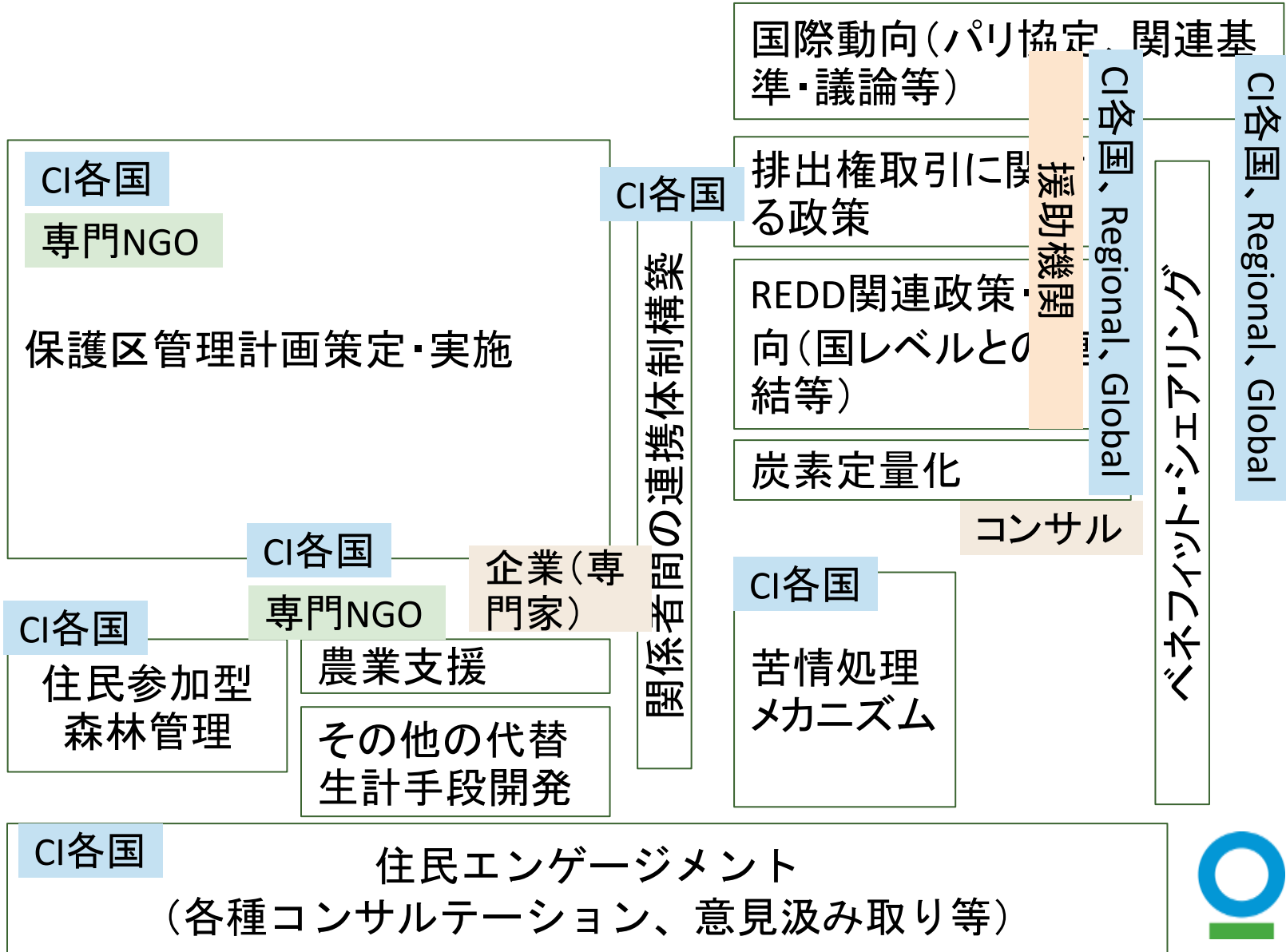
クレジット創出の為の取り組み

国際

中央政府

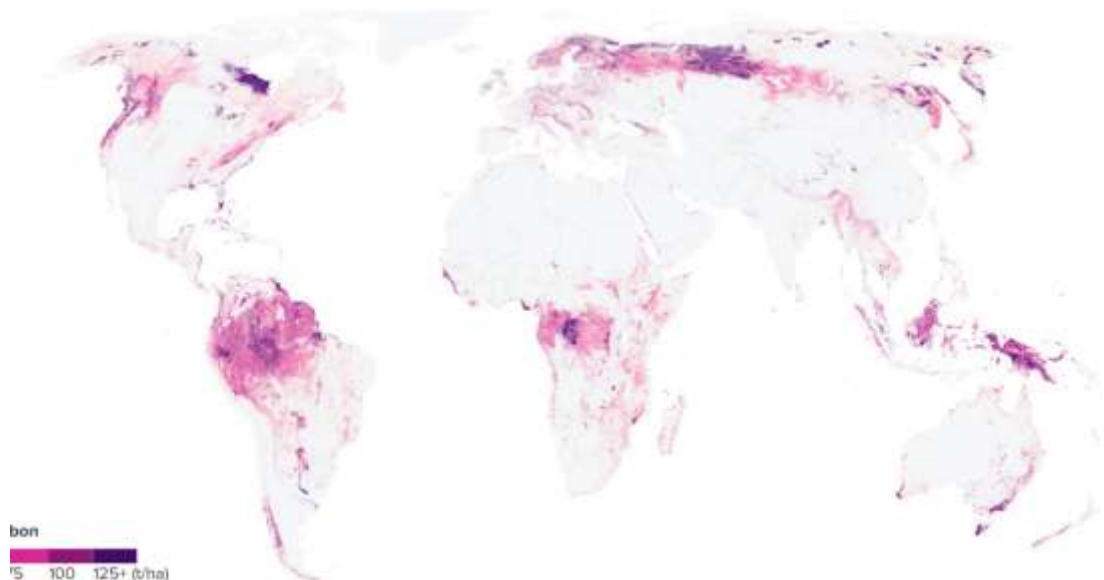
地方政府

コミュニティ



REDD+からのさらなる発展

- 「自然の劣化」
- REDD+: オフセットを目的とした炭素クレジットという狭い分野
 - それに付随した様々な要求(制限): ベースラインとの比較、追加性、高精度での定量化、不確実性、非永続性、コストetc
- 気候変動緩和上重要だが、オフセットが最適と限らないケース
 - 例) Irrecoverable Carbon (回復不可能なカーボン)



- 「気候変動緩和」にとどまらない自然(生物多様性)の重要性(水、生産、防災etc)
 - 自然は複雑で冗長→劣化の影響がわかりにく
 - 将来世代が豊かに暮らす未来のために、何をすべきか



(参考) ベネフィット・シェアリング マニュアル

- 国際NGOのWCSが作成
- カンボジアのKeo Seima REDD+プロジェクトの経験に基づき作成されており、大変参考になる。

[KSWS REDD+ Benefit Sharing Manual, version 2.0 - Harri Washington \(wcs.org\)](https://www.wcs.org/)



ありがとうございました

